

カザフスタン放射線学会、第11回ユーラシア放射線学会参加報告

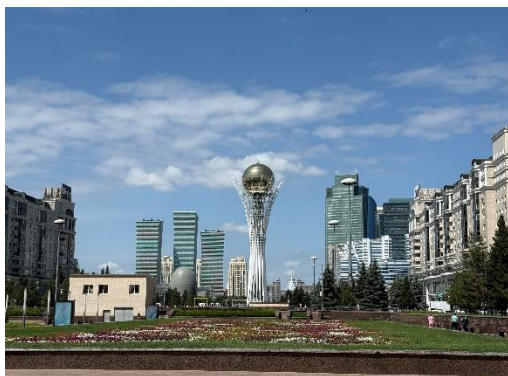


図1: アスタナの街並みと街のシンボル、ハイデレク



図2: ハズラトスルタンモスク。中央アジア最大級のモスクです。



図3: 独立宮殿



図4: welcome party にて

第11回2025年6月26日～28日にかけて、カザフスタンの首都アスタナにて開催された「第11回ユーラシア放射線学会(11th Eurasian Radiological Congress)」およびカザフスタン放射線学会に出席した。カザフスタンは中央アジアに位置し、豊かな自然とエネルギー資源に恵まれた国である。首都アスタナは近年急速に発展した計画都市であり(図1)、壮麗なモスク(図2)や近未来的な建築物(図3)が立ち並ぶ、ダイナミックな都市である。

今回は関西国際空港から中国・広州およびウルムチを経由してアスタナに到着する行程で、移動には丸一日を要した。今後、成田ーアルマトイ間の直行便が就航予定であり、日本からの参加がより容易になることが期待される。

学会前日にはウェルカムパーティーが開催され、世界各国からの参加者が集まり、早くも活発な交流が始まった(図4)。開会式では、富山理事長が、長年にわたる国際放射線医学への貢献を評価され、カザフスタン放射線学会より「Honorary Member」の称号を授与された。この表彰は、日本とカザフスタンとの学術的な絆の深まりを象徴するものであり、会場は大きな拍手に包まれた(図5,6)。

学会は3日間にわたり、3会場での多彩なセッションが並行して開催され、診断・治療・AI・教育など幅広いテーマについて活発な議論が展開された。私は2日目の「RSK meets JRS」国際ジョイントセッションにおいて、「Imaging diagnosis of pulmonary hypertension and catheter treatment of CTEPH」の講演を行った。講演後には大会長のTairkhan Dautov先生よりご質問をいただき、カザフスタンにおけるインターベンショナルラジオロジー(IVR)分野への高い関心と将来の発展への強い意欲を感じ取ることができた。また、初日のGala Party、2日目のPresident Dinnerと連日にわたって用意された社交イベントでは、各国の専門家と親睦を深めることができ、国境を越えた人的ネット



図 5: 開会式、表彰式後の富山理事長と Rakhimzhanova 理事長



図 6: 開会式後、富山理事長、Tairkhan Dautov 大会長と



図 7: RSK meets JRS 講演後



図 8: UMC 病院見学

ワークの広がりを実感した。特筆すべきは、最終日朝 7:00 からレジデントや若手医師を対象とした教育セッションが数多く組まれていた点である。熱心に聴講し、積極的に発言する若い参加者の姿は、今後のカザフスタン放射線医学の明るい未来を感じさせるものであった。こうした教育重視の姿勢は、学術集会の持続的な発展にとって極めて重要であり、主催者の理念がよく表れていた。

今回の参加においても初日午前終了後に Dautov 会長の好意で University Medical center (UMC) を訪問する機会を得た。心臓血管センター、Child center, Diagnosis center, Neurosurgery hospital が一つずつの建物として稼働しており規模の大きさを感じた。

2 年前にウズベキスタンを訪問する機会をいただいたが、今回の参加においても、中央アジアにおける放射線医学の発展可能性を改めて実感し、日本の知見と経験が国際的に貢献できる場面の多さに気づかされた。今後もこのような学術交流の機会を通じて、国際連携の推進とアジア・ユーラシア地域の放射線医学の発展に寄与していきたい。また今回も貴重な機会を与えてくださった富山理事長、日医放理事の先生方に感謝いたします。ありがとうございました。